

D T 予防接種を受けましょう

DT2期予防接種は、ジフテリアおよび破傷風を予防するため、
幼児期に受けたDPT1期(又はDT1期)の追加接種として受ける予防接種です。

【接種スケジュール】



対象者：11歳以上13歳未満の者(13歳の誕生日の前日まで) ※沖縄市に住民登録をしている方
※ジフテリア・破傷風のいずれかにかかった方も、DT予防接種を受けることができます。

接種回数：1回

接種料金：無料(公費負担) ※対象者以外は自己負担となります。

★ジフテリア(D)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こる病気です。主にのどに感染しますが、鼻にも感染します。症状は、高熱、のどの痛み、犬が吠えるようなせき、おう吐などで、のどに偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。

また、この菌は、ジフテリア毒素を大量に出して神経や心臓の筋肉を侵すため、発病後に心筋炎や神経麻痺を起こし、突然心筋障害で死亡することもあります。

現在、国内ではワクチンの普及によりジフテリアの罹患リスクを95%程度減らすことができると報告されており、ほとんど患者はいませんが、ワクチンをやめざるを得なかった旧ソ連などでは大流行が起こり、多数の犠牲者が出ました。

★破傷風(T)

主に、傷口から侵入した破傷風菌が体内で毒素を産生し、全身の神経がおかされ筋肉麻痺やけいれんを起こす病気です。最初は、顔の筋肉を動かさず引きつった顔になるなどの症状から始まり、徐々に口が開けにくくなり、その後数日以内に全身の筋肉がいつせいに縮んでけいれんが起こり、息ができなかったりし、死亡することもあります。

破傷風菌は土壌中に存在し、世界中どこにでもいる為、常に感染の危険性があります。深い傷だけではなく、屋外での土遊び等でできる小さな傷でも起こります。また、この菌は自然感染によって免疫を獲得することはなく、予防接種以外に免疫をつける方法はありません。ワクチンの接種によって100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されています。

●DT予防接種の副反応

DT予防接種は、DTトキソイドという不活化ワクチンを接種します。

DTトキソイド接種後の副反応としては、注射部位の赤み・はれ・しこり・痛みなどの局所反応が主で、接種回数を重ねるごとに反応が強くなる傾向があります。赤みやはれなどは一過性で数日中に消失しますが、しこりは1～2週間残ることがあります。

注射部位以外の副反応としては、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、下痢、めまい、関節痛などを認めることがありますが、いずれも一過性で数日中に消失します。

重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがありますので、接種後は観察を十分に行ってください。

●予防接種による健康被害救済制度について

定期予防接種の後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償(医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料など)を受けることができます。

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 939-1212(内線 2232・2233)

※この説明書の情報は平成31年4月現在のものです。